

(1)学校経営の改革方針における今年度の重点取組についての主な評価結果

項目	行動計画の目標・評価方法	達成状況・評価結果	具体的取組に関する成果や課題
校 1 共に学び合い共に成長できる学校	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容の充実と授業力の向上に努め、「わかる授業の構築」に向けたサポート活動を行います。 ・生徒の平均家庭学習時間を1学年は90分以上、2学年は120分以上を目指します。 ・進路情報誌「コンパス」を通して、進路情報や進路指導の方針を生徒及び保護者に理解を促します。 ・あいさつをすることから人間関係を築きます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回の授業公開を実施。おもに5月は保護者、11月は他校の教員が参観を行った。各教員が授業のスキルアップを目指していく姿勢は定着している。 ・1学年で家庭学習時間が90分を超える生徒は、20%程度、2学年では、平日で19%、休日で23%の生徒しか120分以上の学習を確保できなかった。 ・進路情報誌「コンパス」について、紙面の工夫や内容の充実に努め、生徒・保護者ともに2/3以上に読まれた。 ・あいさつが、出来つつあります。アンケート結果でも80%の生徒が、あいさつをしていると回答している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業公開のあり方を検討するとともに、研究授業の成果を還元していく必要がある。また、授業改善の成果を検証する方法も必要である。 ・学校外での学習習慣の付いている生徒は少なく、付いている生徒でも学校や学習塾の課題のみに頼っている生徒が多い。 ・学年が上がるにつれて、「よく読む」割合が高くなっているが、全体では、1/3程度が読んでいないことになる。1学年の段階から進学を意識した指導が必要である。 ・学年集会やホームルーム、また、部活動の指導などで、あいさつの励行に取り組んだ。
2 信頼感に満ちた進学校	<ul style="list-style-type: none"> ・国公立大学へ20名以上、「関関同立」大学へ50名以上、「産近甲龍」大学へ150名以上の合格を目指します。 ・学年と進路の連絡を密にし、共通理解のもと指導にあたる。 ・個人面談を充実させ、じっくりと話す機会を持ちます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国公立大学前期試験終了時点で、「国公立9名」「関関同立12名」「産近甲龍52名」が合格している。 ・学年と進路指導部との連絡会議は、1学年とは1回、2学年とは2回、3学年とは5回行った。 ・目標の確立や、学習の動機付けに取り組み、1学年では、56%の生徒が将来の目標を確立出来ている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・AO・推薦入試には、全体（のべ）で572名が受験し、134名が合格した。一般選抜を含めると、私立大学は、全体で224名が合格している。 ・一学年においては、23%の生徒が将来の目標が確立出来ていない。
続 3 ける進学校 前向きな姿勢を持ち	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自主的に学習し、知識を高めていくとともに、豊かな情操を身につけていく活動を推進します。そのために、生徒の学習意欲を高めるための環境整備を行います。 ・生徒会活動・部活動など生徒の自主的・自立的な活動を支援します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自習室については、教頭や事務部と連携して、基本的なプランニングを行ったが、整備することはできなかった。 ・生徒会顧問と生徒会執行部を中心に活発な活動ができた。学校行事に対する生徒の満足度も高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・費用面が課題である。学習コーナーの使用は定着してきているが、特に寒さ対策など、さらなる環境整備が必要である。 ・保護者アンケートでは、部活動や生徒会活動を魅力に感じる人が少ないし、充実させてほしい項目にもあがっていない。逆に基礎学力の向上や進路希望の実現、補習内容の充実を望む声大きい。

(2) 組織の状態の評価結果

アセスメントから明らかになった状況	
強み	<ol style="list-style-type: none">1 普通科、英語科、情報科の3学科があることにより、各学科間の特徴を生かした教育活動ができる。2 教員の間に「授業改善」や「授業力向上」への意識が高まりつつある。3 教職員同士のつながりが密で、意見や情報を交換しやすい雰囲気がある。また、フレキシブルな考えの人が多く、新しいことにチャレンジしやすい。4 穏やかで真面目な生徒が多い。5 英語科、情報科の持つ教育力を様々な形で地域に還元すると共に、地域の中学生やその保護者に向けて情報発信ができています。6 生徒面談や進路と学年団の情報交換が頻繁に行われており、生徒の進路実現に向けた指導体制が整っている。
弱み	<ol style="list-style-type: none">1 中学生の卒業者減に加え、近隣に工業高等専門学校が開校することもあり、本校希望生徒が集まりにくい状況が生まれつつある。2 家庭学習時間が1年生で90分以上、2年生で120分以上という生徒はいずれも20%程度しかおらず、家庭学習の習慣が身に付いていない生徒が多い。3 授業改善の取り組みが、英語科以外では、個人頼みの面があり、組織だったものになっていない。4 ほとんどの職員が勤務時間を超えて働いており、職員間に多忙感が広がっており、落ち着いて話し合う余裕がない。

(3) 組織力向上のための取組(改善策)

次年度に向けた取組
<p>22年度に引き続き、「さらなる高みを目指した進学指導」を実現するために以下の4つを教育活動の中心に据えて行っていきます。</p> <ol style="list-style-type: none">1 授業改善のための取り組み 今年度の教職員間に芽生えた機運を大切にしながら、教員を教育研究セミナーに派遣すると共に、民間の授業力改善プログラムを研究し、授業力の向上に努めます。また、授業改善による成果の検証方法も研究していきます。2 進路指導体制の構築 国公立大学や難関私立大学への進路実現を図るために、基礎学力の向上に取り組むと共に、上位層の学力の充実を図る。また、先進校へのベンチマークや、大学進学を実現するための新学習指導要領のカリキュラムを編成します。3 家庭学習時間の増大の取り組み 英語科の Can Do List と同様なものを各教科でも工夫し、生徒に示すことによって、目的意識を持たせ、自ら進んで学習に取り組む習慣が身につくようにします。予習や復習をやらざるを得ない授業を展開し、生徒の家庭学習の時間の増大を図ります。4 広報活動の充実 学校紹介リーフレット、広報誌「JOIN US」等の充実を図り、地元中学生に配布します。Webサイトの更新を月2回以上はすると共に、地元のケーブルテレビやFM放送局、情報誌の協力を得て、学校の情報発信に努めます。